地震が起きてもなかなか落ちない！
不思議なテープ！
落下抑制テープ
なぜ落ちないの？
落下抑制テープは、特殊表面を持つフィルム素材を使い、地震時の図書落下のリスクを低減させるテープです。
※その効果は、震度6弱（東日本大震災波形モード）の実験により確認しています。
災害時の図書の落下防止に！
ガラス破り対策
こじ破り対策
焼き破り対策
防犯フィルム
・破られにくい強靭なフィルム。
・事務所や自宅の空き巣対策に。
破片が落ちない?!
飛び散らない?!
飛散防止ガラスフィルム
・割れたガラスによる二次災害から身を守る。
・UVカット率99%以上だから、家具や商品の日焼け・色あせを低減させます。
住友スリーエム特約加工販売代理店
株式会社デサン
お問合せはコチラまで http://www.dessin.co.jp
〒331-0815 埼玉県さいたま市北区大成町4-140
048-651-1881

2月
掛川市立4中学校
大東保健センター
3月
湖西市立の
幼稚園、小・中学校
に24セット納入!!
停電時電源切替システム
エレクピース
ソーラーシステム、インバーター発電機、EV、ハイブリッド車などの外部電源を安全に、簡単に屋内使用できます。
磐田市豊岡中学校　竜洋中学校
福田小学校　袋井市コスモス館
などに設置
【コントロールBOX】
【電源切替盤】
【手動切替】
携帯スマホでいますぐ動画へアクセス
製造販売元 AKAMATSU 株式会社 赤松電気
〒438-0036 静岡県磐田市大立野450番地
☎0538-37-5233 FAX 0538-37-5243
URL http://www.akamatsu-denki.com/　E-mail akamatsu-denki@onyx.dti.ne.jp

復旧・復興・防災

震災の記憶を風化させない

いつはじまるか、いつまでかかるのか、というのが多くの震災復興プロジェクトの現状。民間企業はプロジェクトに参加できるように万全の準備を整えつつある。しかし復興支援を継続するにはビジネスとしての展望も必要。国や自治体の方針が定まり、復興スケジュールが少しずつ明確になってきている。

再生可能エネ一大産業集積地に
福島県、洋上風力実証へ

福島県では〝再生可能エネルギーの一大産業集積地〟を目指す復興に向けた動きが注目される。県内でのエネルギー需要量に対し、再生可能エネの供給を2015年の24%から20年には40%へ拡大。そして「40年には100%にしていく」（福島県商工労働部産業創出課）という野心的な取り組みだ。

これを達成するのにけん引役となるのが、県沖合20キロメートルの洋上に風車を浮かべる「浮体式洋上ウインドファーム」の実用化プロジェクト。陸上より風速が大きい洋上を活用。多数の風力発電設備で発電し、海底ケーブルで陸上に電力を送る仕組みを描く。東京大学や丸紅などが参加する産学連携コンソーシアムを通じ実証試験が始まろうとしている。

計画ではまず今年中に出力2メガワットを1基、14年以降には世界最大級の同7メガワットの風車2基の建設を開始する。安全性や経済性などの検証とともに浮体式の送変電技術、高性能鋼材、観測技術の確立など、世界初の浮体式ウインドファームを目指し技術課題に挑戦する。大規模なウインドファームを実現するのに欠かせない漁業との共存もテーマで、周囲の魚の状況などを調査する。事業規模は220億円を見込む。

洋上風力で先行して進む着床式は遠浅な海域が多い欧州では有利だが、日本近海はコスト面などの観点から浮体式の方が潜在的に可能性を秘めている。原発が立地した福島県ではもともと強い電力系統があることも強みとなる。福島県では将来的に「1－2万点の部品で構成される風力発電産業を集積させるところにつなげたい」（同）とし、雇用創出までを見据えている。

また同県郡山市では、産業技術総合研究所の再生可能エネ専門研究拠点の整備が進められている。14年4月に開所する予定で、敷地面積5万平方メートルの広大な敷地内に本館と実験用別棟を建設中。次世代太陽電池、地熱、風力などの研究を地元の大学や企業などと連携して進める計画。雇用も徐々に増やし、最終的には100人規模になる見込み。

これら大規模プロジェクトをいくつも積み重ね、再生可能エネルギーに関連する人材を集積させて活発な産学官交流を促進させていくことが期待されている。

福島県沖では風力発電の実証試験プロジェクトがスタート（福島洋上風力コンソーシアム提供）

廃棄物保管や処理
技術力を生かす

民間企業もその技術力を生かし、復旧・復興支援プロジェクトに取り組んでいる。ユニチカでは12年9月、廃棄粒保管・運搬関連と除染関連、調査・計測関連を三つの柱とする社内プロジェクト「復興地域再生支援チーム」を立ち上げた。社内横断的なチームを用い、グループの技術や経験をトータルで復旧・復興支援に生かすことが狙いだ。

グループ内には建設・土木資材や廃棄物の保管・処理用製品から、水質や大気、土壌汚染などの各種調査・測定分析サービスにいたるまで、復旧・復興支援に利用できるさまざまな製品・サービスがある。放射線（エックス線・ガンマ線）を遮蔽する防水シートや、セシウム吸着繊維材などは一例。これらを被災地にソリューションとして提供することによって、地域の再生に役立てるのが願いだという。

同社によれば現段階で必要とされているのは廃棄物の最終覆土（キャッピング）。引き合いが最も多いのは長繊維不織布を用いたガス透過性防水シート。空気やガスは通すが水は通さない遮水シートは埋め立て地や廃棄物に雨の浸透を防ぎつつ、内部から発生するガスを逃がすことができる。用途としては廃棄物処分場の閉鎖や不法投棄現場のキャッピングに利用される。

しかし、除染など、その次の段階に属する製品はまだ本格的な需要が起こっていない。

同社では「現在はプロジェクトベースだが、これからの進行によって、専門組織を立ち上げることも視野に入れていかなければならない」と話している。

富士通セミコンダクターは原発事故で避難してきた小学校にパソコンルームを提供

企業によるボランティア活動
地域貢献、役割重要に

被災した企業の中で、復旧後に地域貢献やボランティア活動に取り組むところもある。

富士通セミコンダクターは福島県会津若松市にある会津若松工場などが被災。しかし、関係会社や取引先の協力もあって、約1カ月という迅速なスピードで通常操業を開始した。その後は、半導体工場の運転管理で培った技術を地元企業の復興に役立てようと「省エネ診断事業」をスタートさせた。被災地の福島県内の中小企業に無償でサービスを提供している。

同事業は、半導体製造技術のかなめの一つである設備管理やエネルギー供給などを手がける子会社の富士通ファシリティーズ・エンジニアリングが行う。2日間かけて企業のエネルギー利用状況などを診断し、改善を提案する。担当するのは最先端の半導体設備管理で培われたエキスパートのエネルギー管理士の有資格者だ。

これまでに食品や酒造会社など8社を診断。二酸化炭素（CO_2）換算で6－8%の低減を可能とする改善提案を実施した。また同社はさらなる改善指導を求める地域企業には、詳細な診断やソリューションを格安な価格で提供するという。

震災後、福島県の企業はエネルギー管理の重要性が増しただけでなく風評被害にもあっている。

「省エネ診断を経営改善につなげてもらい、地域企業には元気になってほしい」（佐久間昭一環境推進室企画部長）と、復興への取り組みを続ける。

また、同社は東京電力福島第一原子力発電所の事故で会津若松市に避難してきた同県双葉郡大熊町立熊町小学校と大野小学校に、富士通グループ内のリユースパソコン50台を集め、机やいすといった設備と合わせて無償提供。ネットワーク環境の整備までもボランティアで行い、児童が授業で利用するパソコンルームを構築した。2校が使う避難先の校舎でパソコンを使った学習ができなくて困っていることを知ったのがきっかけだったという。

12年4月、セットアップされたパソコンの画面に大熊町のキャラクターが出たときには児童から歓声があがり「かかわれて良かったとやりがいを感じた」（野牧宏治環境推進部プロジェクト課長）。また、この支援に加わった社員への影響も大きかったようだ。この後、9月には同じ校舎に社員が出向いて資源やエネルギーの有効活用について話す「環境出前授業」も行った。

震災からすでに2年が経過した。しかし、被災地の範囲があまりにも広く、そして規模が大きかったということもあり、いまもなお、震災と津波による廃棄物が野積みにされたまま、あるいは処分を待っている段階という場所が多く残されている。自宅へ戻ることができない住民も多く、復旧・復興の道のりは長いといわざるを得ない。

そうした中、高い技術開発力で世界をリードしてきた日本の民間企業は復旧・復興に向けて、さまざまな支援活動を行ってきている。いま、モノづくり技術、ボランティア活動などを通じて、社会的課題を解決できる民間企業の役割が重要視されている。

Innovate! Next Safety Stage
2013年10月、株式会社 東京ビッグサイトは
安全・安心にかかる国内最大級の展示会を同時開催!
約4万m²の会場に約500社・団体が出展
東京国際消防防災展2013
5年に一度の大規模イベント！ 国内外の消防防災関連企業が一堂に集結
会期 平成25年10月2日（水）～5日（土）
会場 東京ビッグサイト　西1・2ホール、会議棟
共催 東京消防庁、東京国際消防防災展2013実行委員会
お問い合せ TEL：03-5530-1121　E-mail：fst@tokyo-bigsight.co.jp
出展対象製品
■ 消火・救急・救助
• 消防自動車、消火設備・機器、救急・救助敷材など
■ 災害対策
• 給水、飲料供給、ライフライン確保、NBCR災害対策など
■ 情報通信
• 防災情報システム、安否確認システム、BCP支援など
www.fire-safety-tokyo.com
危機管理産業展2013
Risk Control in Tokyo RISCON TOKYO
国内唯一！ あらゆる危機に備える「危機管理総合トレードショー」
会期 平成25年10月2日（水）～4日（金）
会場 東京ビッグサイト　西3・4ホール、会議棟
特別併催企画 テロ対策特殊装備展（SEECAT）'13
お問い合せ TEL：03-3503-7641　E-mail：ofc@kikikanri.biz
出展対象製品
■ 防　災
• 各種災害への対策資機材・製品・技術
■ リスク管理
• 事業運営・継続のための各種資器材・サービス・システム
■ 防　犯
• 各種犯罪の予防、治安確保を目的としたシステム、資機材
■ 特設パビリオン
• 老朽化インフラ復旧対策
• 環境リスク対策
• サイバー攻撃対策
www.kikikanri.biz
出展申込受付中　5/31（金）締切